

【会員だより】

学会参加のススメ

愛媛大学医学部附属病院 診療支援部 大元謙二（62 回生）



新型コロナウイルス感染症の経験から、私たちはオンラインでの学会開催(参加)という手段を手に入れました。その恩恵は大きく、より学会に参加しやすい環境となりました。皆さまいろいろな形で学会参加を楽しまれていると思います。

令和4年10月15日～16日の両日、松山市にて第18回中四国放射線医療技術フォーラムが現地開催されました。私は大会長を拝命することとなり、大きな大会を一から準備していく大変さを日々感じながら、スタッフや会員の方々、企業の皆様の支援のもと無事に終えることができました。

この経験から、開催していただいたおかげで参加することができる、という感謝の気持ちがより強くなりました。この感謝の気持ちは、参加という形であらわすことができますので、自身に関連する学会には一般参加者としてできるだけ参加したいと思っています。

今回の中四国放射線医療技術フォーラムには、私が愛媛大学医学部附属病院入職当時の技師長(現在は80歳を超えています)も参加してくださいました。閉会式の後「ようやった。ご苦労さん。」と声をかけていただきました。当時から大変厳しい技師長で、この時初めて褒めていただいたと一人喜んでいました。私を技師としてまた一人の社会人として育ててくださった恩師に、少しでも恩返しできたことは、現地参加のサプライズでした。

また参加された皆さん方が、恩師やお世話になった方、友人などとの再会を楽しんでいる姿を各所で見ることができ、対面での開催の醍醐味と感じました。

ここ数年行動制限が続いたことで、すっかり出不精になってしまった私ですが、人と会うことの大切さを再認識させてくれたと感じています。

学会は、年間を通じて各地で開催されます。思いもよらない人との再会はちょっとワクワク感があって刺激になります。特に京都医療技術専門学校卒業後、まもなく35年を迎える同級生と会えることを楽しみに、これからも学会に現地参加したいと思っています。

以上

*通巻246号 2023年1月10日発行(2022-No.4)より